

IV 労働衛生（暑熱） 編

1 リスクの見積り手法

①有害性のレベル、②作業の程度の2つの要素による『マトリクス方式』でリスクを見積ります。

2 評価基準

① 有害性のレベルの評価基準

表 3-16 有害性のレベル

有害性の レベル	WBGT 指数※1	WBGT 計が用意できない ときの指標	
		乾球温度	湿球温度
A	31℃以上	35℃以上	27℃以上
B	28～31℃	31～35℃	24～27℃
C	25～28℃	28～31℃	21～24℃
D	21～25℃	24～28℃	18～21℃
E	21℃まで	24℃まで	18℃まで

※1 WBGT（湿球黒球温度： *Wet Bulb Globe Temperature*）とは、熱中症になりやすい気象状況かどうか分かる基準のことです。

WBGT の値は、湿球温度※2と黒球温度※3を測定し、また、屋外で太陽照射のある場合は乾球温度※4を測定し、それぞれの測定値を基に次式により計算したものです。

● WBGT（湿球黒球温度）の算出方法

屋外：WBGT = 0.7 × 湿球温度 + 0.2 × 黒球温度 + 0.1 × 乾球温度

屋内：WBGT = 0.7 × 湿球温度 + 0.3 × 黒球温度

※2 強制通風することなく、輻射(放射)熱を防ぐための球部の囲いをしない環境に置かれた濡れガーゼで覆った温度計が示す値

※3 次の特性を持つ中空黒球の中心に位置する温度計の示す温度 [1] 直径が150mmであること [2] 平均放射率が0.95(つや消し黒色球)であること [3] 厚さが出来るだけ薄いこと

※4 周囲の通風を妨げない状態で、輻射(放射)熱による影響を受けないように球部を囲って測定された乾球温度計が示す値